

環境報告書

(ISO14001:2015)

期間： 2021年4月1日 ～ 2022年3月31日



2022年4月30日作成



株式会社シーピーアール
CPR飯山工場

環 境 方 針

株式会社シーピーアールCPR飯山工場は、当社の業であるリサイクルパレット製造業務において、環境保全への取り組みを最重要課題の一つとして捉え、環境負荷を低減して地球環境の保全並びに環境汚染防止に寄与するため、以下の「環境方針」を定め、これに基づいた経営活動を行います。

1. 業務を適正かつ安全に行うために、法律や条例及び利害関係者との同意事項を遵守します。
2. 環境管理体制を整備し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
3. 環境汚染の未然防止及び環境負荷の削減を図ります。
4. 以下の項目について優先して活動し、環境保全に取り組みます。
 - ・電力量の削減による省エネの推進
 - ・従業員並びに工場見学者に対し、プラスチック製容器包装のリサイクルに関する啓発活動の実施
 - ・廃棄物の再利用並びに用途開発による産業廃棄物削減の推進
 - ・排水の有効利用と総排水量の削減
5. この環境方針に沿って、環境に対する目的・目標を定め、見直しを行います。
6. 環境方針を全社員に周知徹底し、自主的・積極的に実行します。

本方針は、ISO 14001-2015全体の取組状況を評価し、環境変化に適合するため、定期的に見直しを行います。
また、社外の関係者より要請のあった場合は公表します。

2022年4月1日

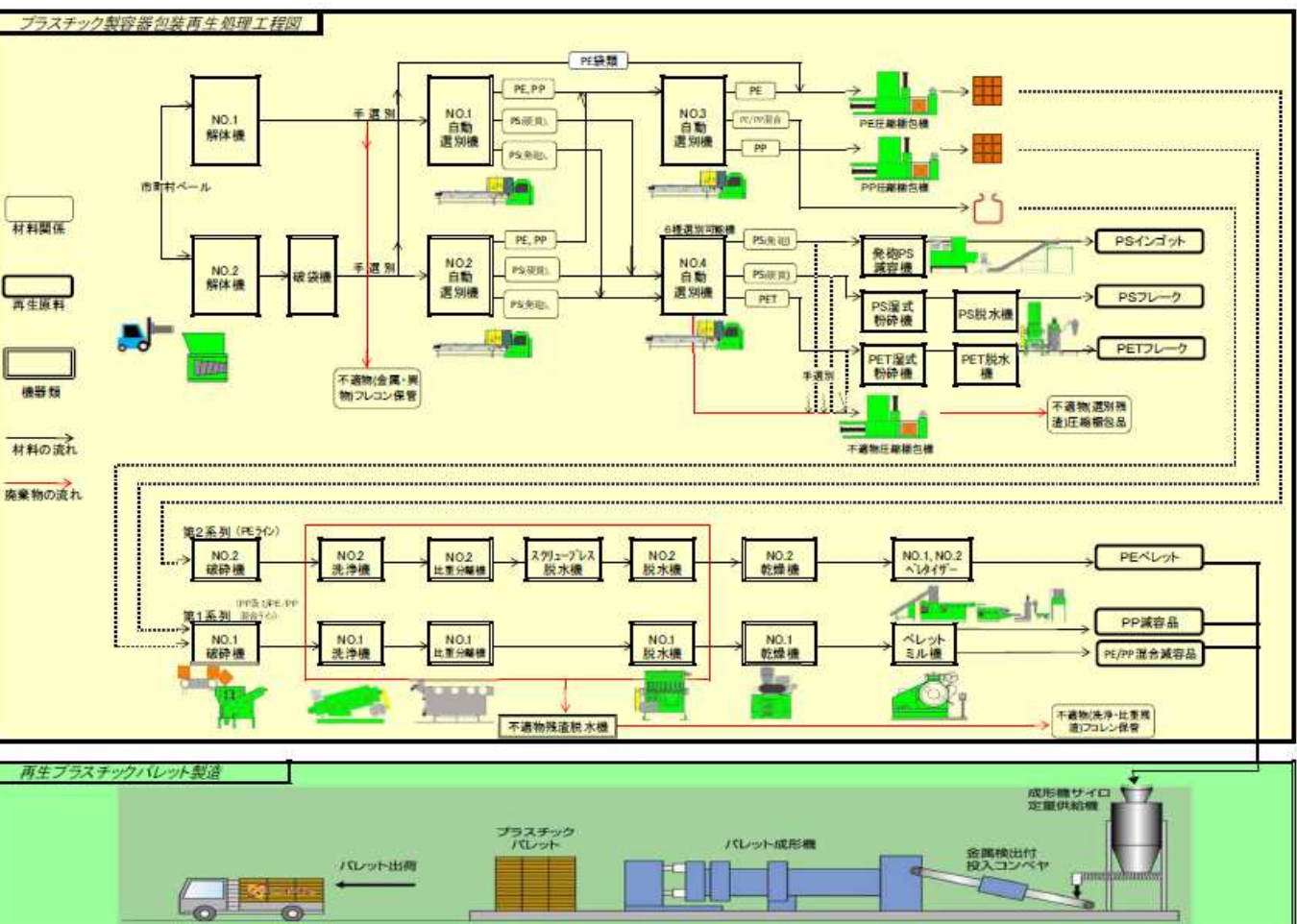
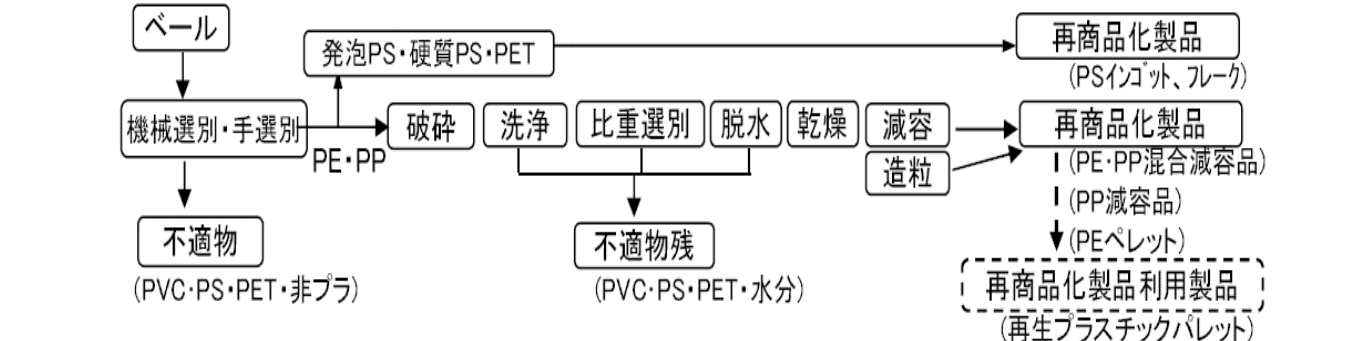
株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦

I. 事業の概要

1. 事業所名及び代表者氏名
株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦
2. 法人設立年月日
昭和43年6月6日
3. 資本金
2, 0 0 0 万円
4. 所在地
〒3 8 9 - 2 4 1 8
長野県飯山市大字寿5 0
5. 環境保全に関する責任者及び担当者
責任者 代表取締役 鷹見 善彦
担当者 環境管理責任者 森山 卓也
事務局 木鋪 達明
中曽根 由香
6. 連絡先
電話 : 0 2 6 9 - 8 1 - 2 1 7 4
F A X : 0 2 6 9 - 8 1 - 2 1 8 0
E-m a i l : iiyama@cpr-net.jp
7. 事業活動の内容
廃プラスチック(一般廃棄物)のマテリアルリサイクル及び、資源循環型パレット製造・引き渡し
8. 事業の規模 (2021/実績)
プラスチック製容器包装再生処理量 : 14, 207 t /年
プラスチック製容器包装再生処理能力 : 96 t /日 (29, 280 t /年)
リサイクルパレット生産量 : 356, 043枚/年 (6, 551 t /年)
リサイクルパレット生産能力 : 1, 05 k g /h r
売上高(CPR飯山工場) : 1, 270 百万円
従業員数 : 62 名
敷地面積 : 16, 283 m²
建屋面積 : 6, 103 m²
9. 事業の開始
平成18年4月1日
10. 許可の内容
一般廃棄物処理施設設置許可証
許可年月日 : 平成1 7 年 2 月 2 4 日
一般廃棄物処理施設変更許可証
許可年月日 : 平成2 8 年 7 月 2 2 日
許可番号 : 第0 4 - 1 7 4 0 1 号

材料リサイクル

(プラスチック製容器包装)



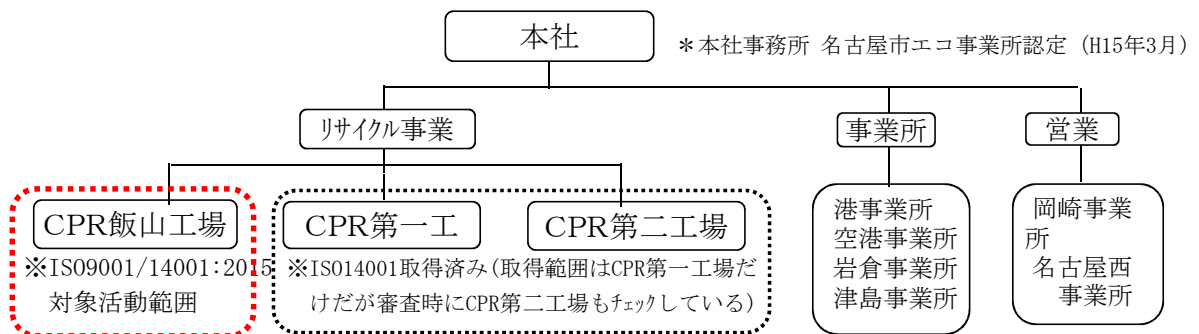
12 対象範囲及び組織

(1) 対象範囲

対象事業所：株式会社シーピーアールCPR飯山工場

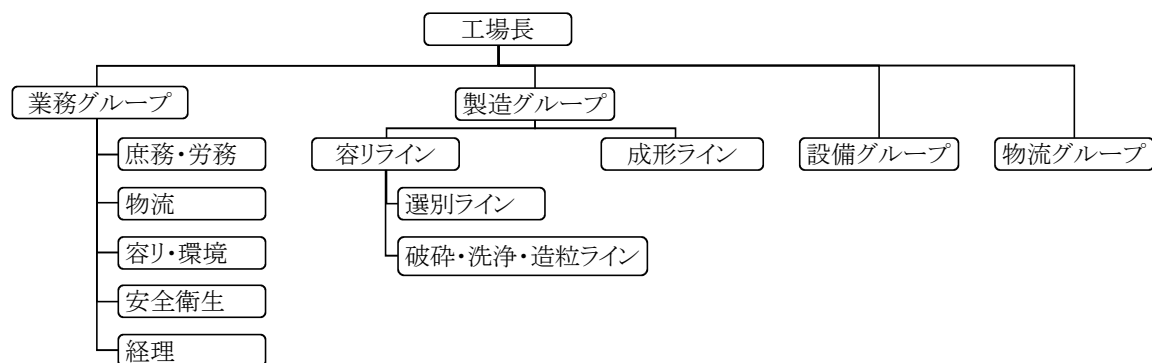
対象活動範囲：プラスチック製容器包装一般廃棄物処理業、リサイクルパレット製造業

(2) 全社組織図

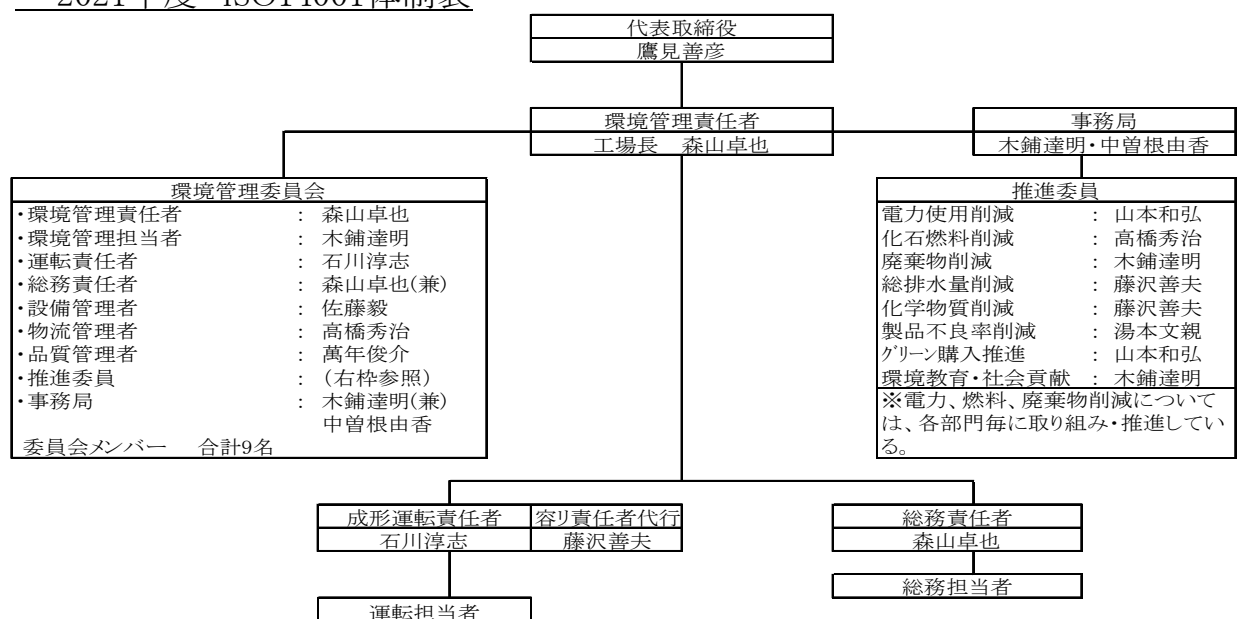


※各事業所は「請負・派遣業」であり客先の環境活動に従う

(3) CPR飯山工場組織図 (2021年度)



2021年度 ISO14001体制表



Ⅱ. 環境目標とその実績 (2021年4月～2022年3月)

2021年度は、環境マネジメントシステム認証をISO14001:2015への移行して初めての更新の年であり、品質・環境を統合して本格的にマネジメントシステムをISO標準で取組んできた。
環境管理目標として、各負荷物質の実数と原単位の両建てで目標設定と進捗管理を行い、引続き中期5か年で累計3%の原単位改善(＝単年度は0.6%改善)を規準に取り組んできた。
管理すべき負荷物質は変更なく、管理物質は追加していない。
目標および結果は次の通り。

【物質投入予定量と実績】

	項目	単位	予定量	実績
総物質投入量	原料ベール投入量	t	14,205	13,582
	パレット原料投入量	t	7,084	6,608
	(合計)	t	21,289	20,190

【環境目標と実績】

環境方針		環境目標 (2021年4月～2022年3月)	実数目標	実績
1	省エネ・CO2削減	電力使用量の削減 (前年比▲0.6%)	8,963,312kwh以下	8,590,466kwh
2		ガソリン使用量の削減 (前年比▲)	16,870ℓ以下	13,260ℓ
3		フォークリフト燃費向上	0.36h/ℓ以上	0.36h/ℓ
4	廃棄物の排出抑制	廃棄物全体の削減 (前年比▲0.6%)	7,854t以下	7,202t
5	総排水量の低減	上水使用量の削減 (前年比▲5.0%)	46,734m³以下	43,842m³
6	化学物質投入量の削減	75%硫酸の削減	460kg以下	100kg
7		ポリ塩化アルミニウムの削減 (前年比▲0.6%)	25,500kg以下	17,000kg
8	不良製品の削減	パレット成形不良の削減	不良率1.6%以下	1.02%
9	グリーン購入の推進	事務用品、資材の再生品利用推進	事務用品のグリーン購入比率90%	—
10	環境教育・社会貢献	社員教育の実施	2回/年	1回/年
11		地域環境活動への参加	1回/年	0回/年
12		工場見学者へのリサイクル啓発活動	300人/年	68人/年

上記項目について、目標値及び2020年度と比較し、以下に検証を行う。
なお比較に当たっては、2020年度実績・2021年度目標・2021年度実績とも資源の投入量(原料ベール入荷量、リサイクルパレット製造量)の実数値が異なる為、資源投入量当り＝「原単位」の環境負荷を算出し、比較することとした。

1. 実績 (環境負荷の取りまとめ表) ※電力の排出係数は中部電力の0.516kg-CO2/kwhを使用している

		単位	2020年実績		2021年目標		2021年実績		2020対比	目標対比
			実績	物質投入 1t当り	目標	物質投入 1t当り	実績	物質投入 1t当り		
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	85,764,882	4.197	88,109,357	4.139	84,444,281	4.182	100%	101%
	化石燃料	MJ	566,748	27.73	583,702	27.42	456,796	22.62	82%	83%
総物質投入量	原料ベール投入量	t	13,969	—	14,205	—	13,582	—	—	—
	パレット原料投入量	t	6,467	—	7,084	—	6,608	—	—	—
	(合計)	t	20,436	—	21,289	—	20,190	—	—	95%
水資源投入	上水道	m³	46,202	2.26	49,718	2.34	42,780	2.12	94%	91%
温室効果ガス排出量	購入電力の排出量	Kg-CO₂	3,987,238	195.11	4,096,234	192.41	3,925,843	194.44	100%	101%
	化石燃料の排出量	Kg-CO₂	38,539	2.76	39,692	2.79	31,062	2.29	83%	82%
受託した一般廃棄物の処理量	収集重量	t	0	—	0	—	0	—	—	—
	中間処理量	t	13,969	1.00	14,205	1.00	13,582	1.00	100%	100%
	うち再資源化量	t	6,868	0.49	7,103	0.50	6,618	0.49	99%	97%
	最終処分量	t	0	—	0	—	0	—	—	—
	中間処理後の産物	t	7,747	0.55	7,913	0.55	7,075	0.52	94%	95%
227 廃棄物等 総排出量	再使用・固形燃料	t	6,198	0.44	6,250	0.44	5,660	0.42	—	—
	熱回収	t	387	0.03	426	0.03	354	0.03	94%	—
	炭焼炭	t	0	—	—	—	0	—	—	—
	その他利用	t	1,162	0.08	1,136	0.08	1,061	0.08	—	—
	(合計)	t	7,747	0.55	7,913	0.55	7,075	0.52	94%	95%
総排水量	公共用水域	m³	0	—	0	—	0	—	—	—
	下水道	m³	43,727	3.13	46,734	3.29	40,186	2.96	95%	90%
化学物質削減	硫酸	kg	0	—	460	0.03	100	0.01	—	23%
	PAC剤	kg	22,010	1.53	25,500	1.80	17,000	1.25	79%	70%
不良パレット削減	製品不良率	%	1.4	—	1.60	—	1.02	—	—	—

2. 全体評価

ISO14001:2015へ移行して初めての更新となった本年は、規格要求事項や自社「統合マニュアル」の規定に沿って活動を行ってきた。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症のリスクの回避を図りつつ、翌年度に迫るプラスチック新法の制度実施に向けての準備をはじめつつ、環境負荷を少なくする活動が求められた一年であった。

2020年のレジ袋有料化が定着しつつあり、燃料費をはじめ物価の高騰が起こる中、回収原料の内容についても変化が見込まれる。一廃処理施設許可の変更も含めて動向を探りつつ適宜適切に対応を行っていくことが必要になる。

(1) 電力使用量の削減（省エネルギー、CO₂排出削減）

原単位目標4,141MJ/tに対し実績4,182MJ/t。ほぼ目標通りの電力使用であった。

昨年度から続くコロナ禍において、原料ペールの搬入量の不安定化や、パレット成形機の故障トラブル復旧までに時間がかかる等の、効率的な処理を阻む要因に見舞われ、電力使用量の削減が進まなかったと思われる。

また、年度末にかけて脱水減容機の導入工事が行われたが、設備を運搬する船便の遅れるなど工事が長引いた影響により、予定外の停止期間があった。原単位目標を達成する為には、より高効率の稼働が必要であるため、そのように稼働できる体制づくり（設備面、人員面等）の検討が必要である。

(2) 化石燃料の使用削減（省エネルギー、CO₂排出削減）

フォークリフトの燃料（ガソリン）が圧倒的な燃料使用割合で、他には事務所棟の冬季暖房（灯油）、除雪重機の燃料（軽油）、給湯のガス（LPG）のみである。

数年来行ってきた電気バッテリー駆動のフォークリフトへの移行は、本年度内は行わなかった。

10台のうち5台についてのガソリンの使用が対象となるが、燃費（h/l）の管理項目については高出力リフトがガソリン車で残った為、工場合計のガソリンリフトの燃費は必然的に悪化傾向にある。

(3) 廃棄物の排出抑制

年間総排出量が7,202t、実数目標比92%、原単位実績0.36t/t。※事業特性上、製品収率がほぼ一定である為、その裏側の廃棄物発生率も一定に近くなる為、原単位目標は設定していない。

容リ部門・成形部門ともに正常範囲内の産廃発生量で推移している。

産廃ペール・フレコン梱包用のストレッチフィルム芯を回収し再利用するなど、部門ごとに小さなことから排出抑制が行われているが、大勢に影響の出るほどの効果は見られない。

現状、主要委託先において、2社ほど委託量の制限を受けているが、問題は生じていない。

(4) 上水道の使用量削減、化学物質投入量

上水は原単位目標2.34m³/tに対し実績2.12m³/tで目標達成。下水放流量も2.96m³/tで達成。

薄硫酸使用はゼロ、PAC剤は22,010lで計画比86.3%、いずれも管理目標をクリアした。

但しこの項目は、使用水・放流水の水質、製品の品質、機器の正常稼働に密接に関係する物質であり、必ずしも「削減」ではなく、「あるべき姿」である事を重視している。

(5) 製品不良率

目標1.6%、実績1.02%（いずれも試験品ロットアウトを含む）。2021年度の目標管理は昨年度に引き続き、「維持目標」として不良率1.6%を設定した。

主に自治体由来の汚れや低品質が成形不良に直結しており、入札の不安定さを考えると、闇雲に前年比改善を目標には設定できない為、維持目標で管理する方式に変更した。

実績としては、上流工程において原料投入の組合せを工夫するなどして成形原料の安定化を図るなどの取り組みにより不良率は低い水準で抑えられている。

(8) 環境教育・社会貢献活動

① 全従業員を対象とした環境教育を1回実施した。（7月） *12月はコロナ対策で中止

② 各自治体への環境啓発活動としての工場見学の受け入れは、新型コロナの影響で視察を申し込む団体がほとんど無く、目標の300人に対し68人であった。

- ③ H25年度から地域貢献活動への参加として、飯山市主催のゴミ拾いに参加してきた（「いいやまクリーンアクション」）が中止となり今年度は社会貢献活動は無し。
- ④ 環境関連のイベントとして、「信州中野環境祭」（9月：中野市）も毎年参加してきたが、2021年度も開催そのものが中止になった。
他、イベント自体の数が極端に減っており、市民への啓発活動として参加する機会を得ることができなかった。次年度以降、ウィズコロナの啓発活動を模索していく必要がある。

Ⅲ 環境活動取り組み内容と結果

本年度の環境活動計画は、昨年度の活動項目も継続しつつ、新たに項目を追加して実施した。環境活動のそれぞれの取り組みに対する評価を以下に記載する。

（評価 ○：ほぼ100%実施 △：30～80%実施 ×：殆ど未実施）

1. 省エネルギー及びCO2削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	事務所棟、選別室の冷房温度適温化(冷房28℃)	○	実施中
②	工場内、事務所棟、不要時の消灯	○	実施中
③	空調機のフィルター清掃	○	実施中
④	デマンドコントローラーによるデマンド監視	○	実施中
⑤	Vベルトの省エネベルト化（定期交換時に順次省エネベルト化）	○	実施中
⑥	成形機チラーの夜間1台運転化 → 常時1台運転（11月より3月迄）	○	実施中
⑦	グリーンカーテンの実施(6月より10月迄)	×	中止
⑧	省エネモーターへの切り替え（既存モータ故障時）	—	該当なし
⑨	設備毎のデマンドコントローラーによる対応	○	実施中
⑩	フォークリフトのアイドリングゼロ化	○	実施中
⑪	ラウンド配送によるトラック走行km数削減	○	実施中
⑫	事務所棟の暖房温度適温化(暖房20℃)	○	実施中
⑬	紙使用量の削減（コピー枚数削減、裏紙再利用）	△	実施中
⑭	フォークリフト単位運搬量の増加による走行時間減	○	実施中
⑮	フォークリフトの号機別燃費管理及び充電式フォークリフト更新（新）	○	実施中
⑯	成型機PLC国産化によるヒーター関連制御改善	○	実施済
⑰	ペレット押出機1台更新による稼働時間の削減	○	実施済

2. 廃棄物の排出抑制

No.	活動内容	評価	活動状況
①	産廃の分別廃棄の奨励と適正保管・排出	○	実施中
②	充電式電池の使用奨励	○	実施中
③	汚泥の水分率削減	○	実施中
④	比重残渣の水分率削減：ツイスターのロータ交換実施	○	実施中
⑤	洗浄残渣の水分率削減	○	実施中
⑥	金属くずの有価販売	○	実施中
⑦	ペレタイザー停止時に使用するオイルの廃油の再利用	○	実施中
⑧	規格外品の有価販売による廃棄物の削減	○	実施中
⑨	容リライン 収率アップ	○	実施中

3. 総排水量の削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	バルブ調整により水量・水圧の節約	○	実施中
②	上水供給バルブの開度の適正化（リサイクル水割合増）	○	実施中
③	スクリーン洗浄機の上水 → リサイクル水への切り替え	○	実施中
④	リサイクル水 使用率 50%（目標）	○	実施中

4. 化学物質の使用量削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	（75%硫酸）硫酸注入のPH設定レベルの適正化	○	実施中
②	（PAC剤）濃度の適正化	○	実施中
③	化学物質使用量・保管料を記録・管理する	○	実施中

5. 自社製品・サービスの環境配慮

No.	活動内容	評価	活動状況
①	中和剤の使用率削減	○	実施中
②	減容品の品質の向上（水分、異物、主成分、その他）	○	実施中
③	自社 金型メンテナンスによる不良率低減	○	実施中
④	金型構造の改造による不良率低減	○	実施中

6. グリーン購入の推進

No.	活動内容	評価	活動状況
①	対象品のグリーン購入比率90%以上	○	実施中

7. 環境教育・社会貢献

(1) 教育・研修

年2回のISO14001ー社内教育を実施した。

- 1回目（7月）：
- 2020年度実績、環境目標達成状況
 - 2021年度環境方針
 - 2021年度環境目標
 - 2021年度環境活動計画
 - 2021年度目標に対する進捗状況

2回目（12月）： 新型コロナ防止の為、集合教育は中止。資料の掲出により教育を行った。

(2) 落札自治体への環境への取組みのアピール

3月の自治体あいさつ回りにて、2019年度版環境活動レポートを市（町村）担当に配布し、取組みをアピールした。（工場見学も”可能であれば”同時におすすめした。

(3) 工場見学受け入れ

2021年度は68名。昨年度はほぼなかった工場見学申し込み数は今年も回復せず。市民に対する啓発活動の機会が著しく少ない一年であった。

	本年度		累計	
	件数	人数	件数	人数
官庁関係	2	8	231	976
自治会	1	26	112	2,089
企業	15	29	449	1,229
一般市民・学校	0	0	58	884
その他団体	4	5	59	166
累計	22	68	909	5,344



地元小学生の見学状況

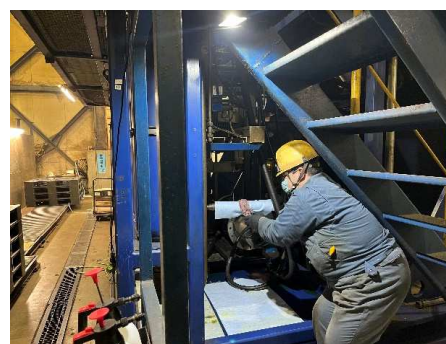
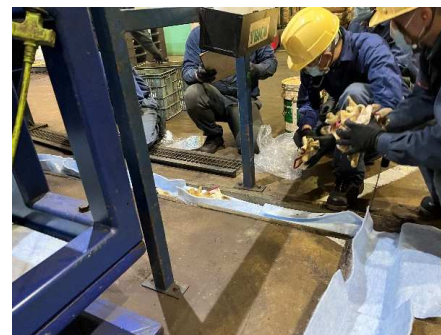
自治体からの工場見学状況



(5) 異常事態訓練

工場全体で実施した総合火災訓練と、各工程ごとに想定される異常事態の訓練とで計4回実施した。

実施日	訓練内容	参加人数
9月13日	ガソリン漏洩防止訓練	7名
11月5日	総合避難訓練	40名
11月24日	硫酸漏洩事故対応訓練	8名
12月23日	成型機オイル漏洩防止訓練	7名



IV. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

関連法規の遵守のため、関連法規を取り纏めた一覧表を作成し、毎月チェックした。
2006年4月の工場稼動以後、環境関連法規等の遵守状況については毎月1回点検を実施しており、環境関連法規等を遵守していることを環境管理責任者が確認を致しました。
また、飯山市及び近隣地域との公害防止協定も締結し、公害防止に万全を期しております。
H24年度から実施している法規制外の自主測定、自主管理項目の
・脱水汚泥、比重分離残渣、洗浄残渣の水分率測定（廃棄物の排出抑制）
・工場周辺の騒音、振動、臭気、粉じん測定（周辺環境保全）
については、2021年度も毎月測定し、異常の無いことを確認しています。

2021年4月1日～2022年3月31日	環境に関する違反及び訴訟	無し
	環境に関する外部からの苦情	無し

V. 代表者による全体評価と見直しの結果(上半)

株式会社シーピーアール CPR 飯山工場

評価対象期間：2021年4月～2021年9月

2021年度 第1回マネジメントレビュー (QMS/EMS)

品質/環境 管理責任者の報告とコメント (レビューへのインプットより)	代表者による評価と見直し
①前回までのマネジメントレビュー結果に対する処置 【統一】 「15,000t落札」は、大型設備投資を伴うものであるならば”費用対効果”を判断基準の第一に据えて取り組む様に。 → 直面する入札では設備変更する事無く15,000tにトライする - 採用難は全国同じ。社内主幹部署と連携し採用活動の質向上を → 幸運もあるが、媒体の工夫と本社連携で4名を採用できた。 【QMS】 - 大きな投資が必要とされる法改正(具体的運用)であるのか見極めをしっかりと行うこと。 → 具体的な施行令・ガイドラインが出ず設備企画自体、組めず。 【EMS】 - 電力使用量において滋賀工場と差が出ている。新規設備導入の企画に合わせ、一層の削減取組みに期待する。 → 脱水減容機の導入を待つ。中期的にはバレット設備と単一化工程を廃止するかどうかポイントと考えている。	15,000t落札への基礎要件整備への取組みは理解できた。入札条件により達成できていなかったが設備・人的側面でごく数年の整備が図られ、下期の入札で15,000tへのトライに期待したい。 - 新法の方角性がまだ見えて来ない。現状設備のまま製品プラを受け入れてから対策を講じるのは良いが物量の見込みとの差異(増量)により工程が詰まる事のないよう、事前の策は常に意識すること。 - 人の採用・充足で、20歳台の3名を含み4人の正社員を採用できた事は大きな成果。 - 脱水減容機導入工事期が下期にずれ、評価対象外 【変更の必要性】 (有) 無
②外部及び内部の課題の変化 【統一】 - 新感染症の事業への影響は前年に比べ緩和。バレットの在庫問題も4月でほぼ解決を見、上期末の実在庫が3,000枚で極小化。 - 廃棄物の国内滞留の問題も、排出先の数社確保により物量としてのリスクはほぼ無くなった。あとはコスト引き下げが課題。 【QMS】 - 新法への対応は、今上期は国から具体的な指針が示されず、対応のしようが無かった。市町村の動きも同様、取材成果も無し。 【EMS】 - 産廃以外では昨年より特に外部・内部の課題変化は生じていない。	- 新法への対応は上述の通り。 - バレット在庫解消への取組みは販社の営業部門と工場が協力して解決に当たった事は評価できる。また、後に尾を引かない”損切り”で損失も僅かであった。 【変更の必要性】 (有) 無
③目標達成の状況と活動内容・結果 【統一】 - 新型コロナウイルス感染症への対応：内部的な対応では感染者ゼロの成果。工程に影響が無かったが、成形ライン作業要員の外国人実習生が未だに入国できず生産へも影響している。 【QMS】 - 洗浄機の単純更新(7月)を実施。汚れ対策で効果を確認した。 - 脱水減容機補助金は大幅に遅れ、上期中に採択を取れなかった。 - PSインゴットを通年採取できる様、作業場の冷却対策を実施した。 - 成形機ルーダーが原因不明の異物噛み込みトラブルで長期停止し、大きな損失となってしまった。(9,800枚) 【EMS】 - コロナ禍での果ごもり・ゴミ増と、7月のレジ袋有料化でゴミ減が相殺されつつあるが、観光シーズンは受入れ量が減少した。	- 目標管理の点では、QMS/EMSともに進捗管理ができていない。 - 成形機ルーダーのトラブル1週間停止について、その報告から”不可抗力”である事は理解できる。しかし真の意味での原因究明は今後考えて行く必要がある。原料工程側とも連携を図ること。例えば高コストすぎて対策を講じられなくとも、原因もしくは原因と推測される事象は捉えていくこと。 【変更の必要性】 (有) 無
④プロセス監視の結果と異常時の対応 【統一】 - バレット・ゴミ抜けの苦情が1件発生。※破損はクレーム扱いとせず。是正措置案件として対策を処置済み。 【QMS】 - 昨年来取組んでいた再生原料の水分子率対策に成果が出始めている。 【EMS】 - 今年度の目玉である新設備での電気代削減は工期ずれで未発生。	- 長野N社のバレット破損の件は対応が難しい事例。顧客と”事実”の相互確認を十分行う事が肝要。 - 自社を顧客と捉えた再生原料の品質異常への取組みは継続すべきだが、トータルバランスを十分に考えること。 【変更の必要性】 (有) 無
⑤内部監査 【統一】 前回と同様の相互監査する方式で1回目の内部監査を実施した。結果は、3部門に対して、提案2件であった。	今後も継続した監査に期待する。 【変更の必要性】 (有) 無
⑥外部審査 【統一】 7月7日、8日にISO審査受審。(QMS+環境、EMS更新) - 統合審査であったが、結果、EMS/QMSとも「不適合」「審査指摘事項」は無し。但し観察事項が26件もの指摘を受けた。	観察事項について、審査員の指摘は真摯に受け止めつつ自社の事情・状態を踏まえ、改善可能な事と不必要な事を、その理由と共に明確にし、取り組むこと。 【変更の必要性】 (有) 無
⑦経営資源への妥当性 【統一】 - 成形ラインの人員不足(外国人実習生)が深刻 【QMS】 - スキルマップの改定を順次行っている。インフラは現状にて妥当。 【EMS】 - 水処理施設の改修企画(膜処理)に着手した。	設備改修について、下期は脱水減容機導入がメインになる。稟議計画通りの成果となるか検証すること。 【変更の必要性】 (有) 無
⑧リスク及び機会への取組みの妥当性 【QMS】 - コロナ禍対策は実習生問題以外は生産・処理に影響を出さなかった - 容り法改正は具体的指針が出ず、取組み評価の対象外とする。 - 懸案の人員不足は、正社員については4名採用の成果が出た。 【EMS】 - 廃棄物問題で中期的な解決が図れた事は成果であった。	事業の性格上、自ら処理量・生産量を数十パーセント規模で帰る事は不可能。その中で早くからリスクを意識した事は認められるが、評価は生産・在庫の正常化後 【変更の必要性】 (有) 無
代表者による総合評価	【統一】 - 昨年からの課題・環境変化・リスク対応でもあった、新型コロナウイルス対策と産廃処理の問題が、この上期でようやく解決できた事は事業環境を考えると評価できる。但し感染症については引続きリスク項目とすること。 - 外国人実習生の件は止むを得ない。半面、正社員を4名採用できた事はここ最近にない収穫である。タイミングが良かった偶然性もあるが、本社と連携し有効な媒体で的確に訴求した結果の採用は蓋然性である。 【QMS】 - 長野N社の件ではグロメットの抜けをクレーム(自社側に瑕疵)とし迅速に対応できたが、破損については状況の相互確認が不十分。品質規格・保障の範囲外の使用法をされた時、顧客への意見は取引上困難な面もあるが、製造側の責任としては - 成形機の安定稼働の取組みはここ数年評価して来た通りだが、5月のトラブルは反面教師となった。むしろ、不可抗力への過剰な設備的対策を迫るのではなく、事後の損失リカバーへ弾力性を持たせた方が適正と考える。 【EMS】 - 環境負荷、環境負荷物質の検査値、環境管理目標ともに良好に推移している事を確認した。 - 新法対応において、産廃の扱いも一部絡んで来ると思われるので、法的側面を的確に捉えておくこと。

2021年10月23日

株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦

V. 代表者による全体評価と見直しの結果(下半期・年)

株式会社シーピーアール C P R 飯山工場

評価対象期間：2021年10月～2022年3月

2021年度 第2回マネジメントレビュー (QMS/EMS)

品質/環境 管理責任者の報告とコメント (レビューへのインプットより)	代表者による評価と見直し
①前回までのマネジメントレビュー結果に対する処置 【統一】 - 下期入札における落札量15,000tへのトライ →結果、14,896t。過去最大量でほぼクリアできた。ただ入札ミスがあり規定量を確保できなかった事は重大な反省点。 ・新法対応への設備的な事前対策を常に意識すること。 →ガイドラインが出てきた。協会、市町村との情報収集により、特に初年度・開始前からの設備改修は現時点では不要と判断している。 ・成形機重大トラブルの原因究明と再発防止。 →原料側の完全解決にはとてつもないコストがかかり収率への影響大で現実的ではない。指摘の通り事後のリカバリーに重点を置く。 ・脱水減容機新設の、計画通りの実行、目的・目標のクリア →補助金絡み、コロナ影響の二重苦で、実施が5カ月遅延した。工程能力、水分率、電気代削減の3大初期目標はクリアできている。但し、異物と嵩密度(貯留性)の新たな課題が発生している。 ②外部及び内部の課題の変化 【QMS】 ・新法の概要が出た。製品プラの含有率は10%程度(協会の読み)、初年度から登録する自治体は限られる見込み、従来の容器包装プラと製品プラを、区分け管理(物・管理帳票とも)をしなければならない。 ・これを踏まえ、7月までにどういう区分で登録するか意思決定必要。※3月の挨拶回りの感触では殆どの自治体でエントリー是非を未決。 【EMS】 ・製品プラを“産廃”として扱う事は無く、別区分でのエントリーとなった。(産廃＝いわゆる弁当殻)。危険品のリスクと対応は変化なし。 ③目標達成の状況と活動内容・結果 【統一】 総合的評価得点率が前年比でダウンし、安定枠可能量が大幅不足したため、効率化枠を行使し、前述の落札数量とした。結果、来期の売上は増だが利益は減となる見込みとなってしまった。 【QMS】 ・パフォーマンス評価で目標未達となった項目はほぼ無い。成形の原 【EMS】 ・環境管理目標(電力、水、廃棄物、化石燃料、化学物質、不良率)は別紙のとおり。電気は脱水減容機導入の遅れが響いた。 ④プロセス監視の結果と異常時の対応 【QMS】 ・脱水減容機新設での異物問題については、洗浄の強化のみ対応したが根本的な解決ではない。貯留問題はサイロの増設で企画中。 ・押出機ダイの自動洗浄企画は費用対コストの面で見送った。 【EMS】 ・下期は、新型コロナウイルス感染対策の一環として、予定されていた集合体での環境教育は実施しなかった。※すべての会議体を一時中止。 ⑤内部監査 ・下期は、新型コロナウイルス感染対策の一環として各種会議・打合せの縮小、外部見学者の受入れ中止。これに伴い内部監査も実施しなかった。 ⑥外部審査 第1回マネジメントレビューで報告のとおり ⑦経営資源への妥当性 【統一】 ・人的資源、上期採用できた正社員4名が定着できているのは好材料。外国人実習生5名が未入国だが、5～7月入国のメドが立った。 【QMS】 ・エレマ社押出機のモーター損傷、ルーダー破断の重症トラブル連続は先の“事後対応”側面では微少な影響で済んだが、経営資源として今後この設備をどう扱うかは大きな課題となっている。 【EMS】 ・環境側面では資源に変化なく、現状にて妥当と判断する。 ⑧リスク及び機会への取組みの妥当性 【統一】 ・上期報告時点と変化なし。コロナ禍、産廃、人員不足、新法対応の4リスクのついて、具体的リスクとして顕在化しなかった。 ⑨新年度計画(2022年度) 方針・目標と、リスク・機会 ①過去最大容量の完遂(落札14,896t パレット372,000枚) ②新法開始(R5年度)への準備年度としての取組みと対応 ③外部的な経済動向＝リスクへの的確な対応 ④改善と、延命・継続の21極の側面に対応した設備・工程改良推進	・複雑な入札システム、札の読み、能力オーバー、と成約が多いのは理解できるが、単純ミスでの取逃がしは、二度と同じミスをしない様、歯止めをかける事 ・製品プラ含有は多くも10%程度の見込みである事は理解した。手探りの初年度となるが、2年目以降へ向けて改修の準備は継続すること。 ・成形工程に限らず、トラブルでの長期停止へのリスクヘッジは「事後対応による影響最小化」も含め常に講ずること。逃げ道を複数準備しておくこと。 ・脱水減容機新設自体は評価できる事だが、付随する新たな課題については、事前に把握でき対応できたのでないか。設備対策は時期大型改修時に行うこと。 【変更の必要性】 (有) 無 ・設備投資については上期に総括した通り見送りで良い。競争他社の情報、市町村との情報交換を進める事。また、初年度対応の一方で、次年度以降の対策を迅速に打てる様、設備業者とも連携すること。 ・産廃へのエントリーは現時点では考えなくて良い。容器包装プラと製品プラで組み立てを考えると。 【変更の必要性】 有 (無) ・安定枠を追求のか、効率化枠で行くのか、その際に現状の再生処理工程の抜本的見直しをするのかしないのか、そして新法がどう影響してくるのか。この先3～5年の中期戦略の面で最重要になる。H28年の大改造と同じぐらいの位置づけでこの1～2年度の課題とすること。 【変更の必要性】 有 (無) ・サイロ増設の稟議は費用対効果を明確にすること。 ・水処理施設、エレマ大物部品、自動化設備、 ・コロナ禍解消後は規定の頻度に戻すこと。 【変更の必要性】 (有) 無 ・コロナ禍解消後は規定の頻度に戻すこと。 【変更の必要性】 (有) 無 【変更の必要性】 有 (無) ・定着率の悪さが全社的な問題にもなっている。特に入社2年目程度までの従業員については、極力、会話の機会を設け、フォローすること。 ・ベレット化設備の今後の運用について、生涯コストという視点で積算を行うこと。それが無いと工程の簡略化改造の議論ができない。 【変更の必要性】 (有) 無 【変更の必要性】 有 (無) ・次年度計画は妥当と認められる。 ・ここ数年で取組み全般に大きな変化がない。3～5年後を見据えた中期計画、大改修の時期に来ている。 【変更の必要性】 (有) 無

代表者による総合評価	【統一】 ・2021年度は、総合的評価とそれに伴う入札自体が成功し、13,500tの業務で、かつパレットの重大トラブルも経ながら過去最大の売上・利益を計上する事ができた。 ・しかしながら数値はともかくとして、この工場にとっての3～5年先を見た事業企画、取組み、改善行動、変化する力、人材育成、という点で、先細りの危惧が大きい。必ずしもその年だけの業績が良ければそれで良い、という事はない。今後この工場がどういう方向に向わせるか、その為に何をどうするのか、CPR各グループとも連携し提案して欲しい。 【QMS】 ・社内顧客としての自社再生原料品質管理への取組みが成実しつつある事は認められる。しかしながら設備と人の老朽化を踏まえ、特に品質と工程管理、それから得られる経済性の視点で「今のまま良い」という考えは捨て改善に取組むこと。 ・容り素材パレットの新規社参入とバージン素材者の値上げの両面の局面である。どちらに転んでも良い体制を敷くこと。 【EMS】 ・2021年度においては各々の環境目標の達成、及び活動の実施を確認した。今後特に法改正情報と対応に留意すること。 ・電力使用量において昨今のコストアップを鑑みると、脱水減容機新設で15%電力カットした事は意義深い。
------------	--

2022年4月27日

株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦